難度★★★☆☆・高2レベルの文法知識・単語知識を前提とします。

漢文読解の戦略

[編集] はやお（manavee国語科）

初訂版

manavee School
2013
関西・指定教材

■目次

第一回・韓非子［思想］　4
第二回・山志［随筆］　6
第三回・唐語林［小説］　8
第四回・後漢書［史伝］　10
第五回・約言［日本漢文］　12
第六回・山中問答／可惜［漢詩］　14

■本書の使い方

1　まずは自分で通読してみましょう。わからないところは、ひとまず後で。
2　おおよその意味が解ったら、文法書などを参考にわからなかったところを考えてみましょう。特に、句形に注意。
3　授業を聴いてみましょう。テキストの重要部分の解釈や知識などが理解できます。
4　疑問点が残ったら、教室で質問しましょう。なるだけ早く答えます。
5　全訳にチャレンジしてみましょう。
6　最後に、テストを解いてみましょう。実力を測って、自分の弱いところをチェック。

＊両面印刷をして冊子にすると、見開きで上に課題文・下に板書ノートができるようになっています。ぜひぜひ活用してください。

■授業での傍線部・記号の意味

二重線……指示語など。
Sマーク・Vマーク……それぞれ、主語・述語。
＜マーク……主語・述語・目的語などのかけている箇所。
▽マーク・△マーク……それぞれ順接・逆接。

＊漢文は、古文と違い傍線を引いてありません。古文と違い、どちらかと言うと授業で学んだことを生かして知識や句法を再確認、読解していくことがカギになります。
＊漢文には解釈はありません。本文中の適当な箇所を訳す、もしくは要約する問題しか基本的には出ません。
＊センターの問題を持ってきた第二～第四回は、紙面の都合上横になっちゃってますごめんなさい。打ち込むのが面倒なので……。

第一回・韓非子[思想]

昔者楚共王与晋厲公戦於鄢陵。楚師敗而共王傷其目。(注1)酣戦之時、(注2)司馬子反渇而求飲。(注3)豎穀陽操觴酒而進之。子反曰、「嘻、退、酒也。」豎穀陽曰、「非酒也。」子反受而飲之。子反之為人也嗜酒、而甘之弗能絶於口而酔。戦既罷。共王欲復戦、令人召司馬子反。司馬子反辞以心疾。共王(注5)駕而自往、入其(注6)幄中、聞酒臭而還。曰、「今日之戦、(注7)不穀親傷。所恃者司馬也。而司馬又酔如此。是亡楚国之社稷而不恤吾衆也。不穀無復戦矣。」於是還師而去、斬司馬子反以為(注8)大戮。故豎穀陽之進酒、不以讎子反也、其心忠愛之、而適足以殺之。故曰、「行小忠、大忠之賊也。」

(注) 1戦いの最中　2軍事担当の職名　3主人の雑用係　4盃に入った酒　5乗り物に乗る　6陣に張ったテントの中　7君主の用いる一人称　8最も重い死刑

虎狼人皆悪之、謂是悪獣。天地生彼、以肉為食、無有他食、人乃悪之。人既有穀食、又必食肉、且無所不食、百計以取之、豈得非悪乎。而恬(注1)不為怪、蔽於習也。蘇(注2)文忠公自出獄後、但食已死之物、絶不宰(注3)殺一生。自謂「非有所求。因己親経患難、無異鶏鴨(注4)之在庖厨(注5)、不復以口腹之故、致使有生之類受無量怖苦耳。」今未能断肉、当守文忠公此戒可也。

(注) 1 恬――平気な様子。 2 蘇文忠公――北宋の文人、蘇軾のこと。政争により入獄していたことがある。 3 宰殺――食肉にするために動物を殺すこと。 4 鶏鴨――ニワトリやアヒル。 5 庖厨――台所。

白敏中在(注1)郎署、未有知者。唯李衛公器之、多所延誉。然而無資用(注3)、以奉僚友。衛公遣錢十万、俾為酒肴、会省閣(注4)諸公宴。已有日。時秋霖(注5)渉旬日。賀抜甚求官未得、将欲出京、来別。甚与敏中同年(注6)。主(注7)閤者告以方候朝官、繆以他適対。甚駐車留書、叙羈遊(注8)之困。敏中得書嘆曰、「士窮達当有時命(注9)。苟以(注10)僥倖取容、未足発吾身。豈有美饌(注11)邀当路豪貴、而遺(注12)登第故人」。遂令召甚先宴。既而朝客来、聞与甚宴、衆人咸去。他日、見衛公。問来者誰。敏中具対、「以留甚、負於推引(注13)」。衛公亦称云、「此事真古人所為。」甚自後以評事(注14)先拝、而敏中入翰林(注15)為学士、未逾三年、為丞相。

(注) 1 郎署——宮中に宿衛する官吏の役所。2 延誉——ほめて評判を広める。3 資用——資金。4 省閣諸公——朝廷の高官たち。5 秋霖——秋の長雨。6 同年——同じ年の科挙合格者。7 主閤者——門番。8 羈遊——旅。9 時命——時のめぐりあわせ、さだめ。10 以僥倖取容——思いがけない幸運を手がかりに、人に取りいる。11 美饌——ごちそう。12 登第——科挙に合格すること。13 推引——推薦し引き立てる。14 評事——官名。裁判をつかさどる。15 翰林——天子の詔勅の作成などをつかさどる役所。

戴良字叔鸞、汝南慎陽人也。曾祖父遵、字子高、平帝(注2)ノ時為ニ侍御(注3)史一。王莽簒レ位、称レ病帰ニ郷里一。家富、好ニ給施一。尚ニ侠気一、食客常ニ三四百人。時人為ニ之語一曰、「関東大豪戴子高。」

良少(注6)誕節。母憙ニ驢鳴一。良常ニ学レ之以娯楽焉。及ニ母卒一、兄伯鸞居レ廬啜レ粥、非レ礼不レ行。良独食レ肉飲レ酒、哀至乃哭。而二人俱有ニ毀容一。或問レ良曰、「子之居レ喪、礼乎。」良曰、「然、礼所ニ以制一情佚一也。情苟不レ佚、何礼之論。夫食レ旨不レ甘、故致ニ毀容之実一。若味不レ存レ口、食レ之可也。」論者不レ能レ奪レ之。

良才既ニ高達、而論議尚レ奇、多駭ニ流俗一。同郡謝季孝問曰、「子自視ニ天下一、孰可レ為レ比。」良曰、「我若下仲尼長ニ東魯一、大禹出ニ西羌一、独歩ニ天下一。誰与為レ偶。」

(注) 1 汝南慎陽——地名。汝南郡慎陽県。 2 平帝——前漢王朝最後の皇帝。 3 侍御史——官名。 4 王莽——平帝を殺して帝位につき、あらたに国を建てた人物。 5 関東——地域名。汝南をふくむ一帯。 6 誕節——思うままに行動すること。 7 佚——(情の)おもむくままに任せること。 8 流俗——俗世間。 9 仲尼——孔子の字。 10 東魯——中国の東部の魯国。 11 大禹——夏王朝の禹王。 12 西羌——西方の異民族の名。

第五回・約言[日本漢文]

有下施二恵於人一者上。而曰、「必有二重報一。」可レ謂レ貪矣。曰、「欲レ明二軽レ財重レ義之志一耳。」可レ謂レ好レ名矣。曰、「我不レ忍レ視二其転(注1)二於溝壑一也。」有二慈心一焉。曰、「彼亦天之所レ生、済レ之所レ以事レ天也。」合二敬天之義一焉。施レ恵一也。為レ貪、為レ好レ名、為レ慈、為レ敬レ天、唯其心所レ存也。故敬レ天者、行事未三必異二於人一、而与二造(注3)物者一為レ徒矣。

(注) 1溝　2筆者が主張する「敬天主義」　3万物の創造者であり、支配者

第六回・山中問答／可惜［漢詩］

Ⅰ・山中問答（山の中での俗人との問答）　李白

問レ余何意棲二碧山一（注1）笑而不答心自（注2）閑ナリ
桃花流水窅然（注3）去別有三天地非二人間一

Ⅱ・可レ惜シム　杜甫

花飛ブコトル有二底急一老去イユケバ願二春遅ノカランコトヲ一
可レ惜シム（注4）歓娯地都スベテ非ザルヲ二少壮ノ時一
寛ゆるウスルハ心ヲまさニ応ベシ二是レ酒ナル一遣（注5）ルハ興ヲシ莫レ過グルハ詩ニ
此（注6）ノ意陶潜ノミ解ス吾ガ生レタリ後二汝ノ期ニ一

（注）1深い山　2他人に構うことなく　3はるかに遠いさま　4歓楽　5思いを晴らす
6老いる嘆きを酒や詩で紛らわす気持ち